



【 定期総会報告 】

4月22日、定期総会を4年ぶりに対面で開催することが出来、議案が原案通り承認されました。通称ピア・かたつむりの時代から2007年の当会設立を経て家族会を引っ張ってこられた長瀬紀一郎様が会長を退任され、顧問役で役員に残られることになりました。

今年度は以下の役員体制で、本人と家族自身のために活動し、他人に分かってもらいにくい、悩みの体験も安心して話すことができ、学び合える場をこれからも設けてまいりますのでよろしくお願い致します。

総会には今後、保健所、龍ヶ崎市等行政機関、社会福祉法人ゆっこらなど密接な連携関係にある機関・団体も再びお招きできるようになることを期待しています。

4月29日、5月27日には役員会を開き、1年間の活動計画とスケジュールがほぼ決まりました。会員の皆様及び関心がある方の家族会への積極的な参加をお待ちしています。

2023年度の新役員は次の通りです。

会長：竹之内啓吾

副会長：土屋恒子

会計：長瀬紀一郎(庶務を兼務)

庶務：大久保タイ子、山縣隆雄、山口忠司、原孝博、臺令子、藤井由美(新任)の各氏が選任されました。また、会計監査には水上克宏氏が選任されました。(竹之内 啓吾)

【 人間万事塞翁が馬 】

人生思うように行かないものだ。桜の開花も間近い3月、東京からこの土地に引越して早や45年になる。田舎の生活に憧れた訳でない。娘の健康を考えての苦渋の決断だった。東京では三軒茶屋に住んでいたが、買い物にも通勤にも大変便利な町で、娘の幼稚園は直ぐ向かいにあった。自分の通勤も40分あれば十分だった。唯一の欠点は大気汚染だった。娘は過敏な体質で、冬になると必ず風邪を引き、咳が長引いた。医者からこのままでは小児喘息になると忠告された。環境を変えねばと真剣に考えたが、この便利な場所を捨て、朝5時半に起床し片道2時間半、超満員の常磐線と都内環状線を乗り継いでの通勤を考えると正直迷った。それでも、娘の健康が第一と、小学校1年への入学時期に合わせて移住を決断した。今思えば30代の貯金も無く、車も買えない安サラリーマンがよく決断したと思う。(次ページに続く)

これまでの主な活動(4-6月)

月 日	項 目	場 所
4月5日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
4月15日	婦人茶話会	総合福祉センター
4月22日	定期総会	市民活動センター
4月29日	役員会	市民活動センター
5月6日	定例会	市民活動センター
5月8日	県南かれん	総合福祉センター
5月10日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
5月16日	県連 理事会	水戸 精神保健福祉センター
5月20日	婦人茶話会	総合福祉センター
5月27日	ゆっこら評議委員会	ゆっこらゆうあいワークイン
5月27日	役員会	市民活動センター
5月30日	県連理事会、社員総会、家族会会長会	水戸 精神保健福祉センター
6月3日	定例会	市民活動センター
6月7日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
6月12日	県南かれん	総合福祉センター
6月17日	婦人茶話会	総合福祉センター
6月22日	県連 理事会	水戸 精神保健福祉センター
6月24日	役員会	市民活動センター



移住当初は小学校まで徒歩約30分の通学に文句が出やしないか、近くに病院が無いので、風邪を引かれたらどうしよう等とヒヤヒヤした。しかし有難いことに、娘は下校時に虫を捕まえたり、草花を摘んだりして楽しそうに帰って来た。新鮮な空気と太陽の光を存分に浴びたのが良かったのか、幸い一度も病気をしなかった。

3歳年下の弟は大変ヤンチャで、大声で遊びまわるしぐさが可愛いと近所で評判だった。当地でもサッカーやテニスクラブに入り、友達も多く健康そのものだった。子供たちは順調に成長し、それぞれ中学・高校に進学した。自分は通勤地獄に苦しんだが、子供たちの元気な姿に移住して良かったと安堵した。

ところが、あんなに丈夫で成績も優秀だった息子が、中学3年頃から急に勉強をしなくなり、制服は乱れ成績が急落した。担任の先生も心配してくれたが全く改善せず、訳の分からない日々が続いた。自分は反抗期のせいだと思っていたが、高校の入学試験が近いというのに、極真空手を習いたいと馬鹿げたことを言うので閉口した(今思うと、妄想の敵から身を守ろうと必死だったのだろう)。高校では直ぐ柔道部に入部したが、5月には妻に体調の異常を泣きながら訴えるようになった。声が聴こえて怖いという話に不安を感じた妻は医学事典を一生懸命調べ、精神障害に違いないと察し、大学病院に診察を受けさせると即刻入院となった。病名を告げられた妻は涙・涙・涙・涙。見るといつも泣いていた。あなたは悲しくないのかと責められたが、泣いて治るなら私だって泣いただろう。幻聴・妄想の本質を知らなかった私は、医者が必ず治してくれると信じていたが、あまりにも楽観的過ぎた。以来30年、息子の病状に大した改善も無く、重い宿命を背負って生きて来た。

しかし「人間万事塞翁が馬」。苦あれば楽もあるだろう。45年前、この自然豊かな当地に移住したことに悔いはない。精神疾病を通じて競争世界だけでなく、障害と福祉の世界を知ることができた。家族会に入会し、気持ちを通じ合える会員とも知り合いになった。願わくば、吾が存命の内に、彼に自立に向けた第一歩を踏み出して欲しい、と願うばかりである。(K・M)

【 好奇心を刺激する 】

好奇心に駆られて、いつもやっていることと違うことをやってみると、新たな発見、また刺激がある。

ある日、髭を剃ることを忘れた。昼過ぎに気づいたが、在宅勤務であるし、外に出る時はマスクをするし、1日くらい髭を剃らなくてもいいやと思って、そのまま過ごしてしまった。次の日の朝、鏡で自分の顔を見てみると、久しぶりに無精髭に遭遇した。俺ってこんな顔だったのかと新鮮だった。無精髭を手でなでるとざらざらとしてなんとも言えない。よく見ると無精髭に白いものが混じっている。ちょっと年齢を感じてしまった。電気シェーバーで無精髭を剃ると、いつもと違って音が大きい。じょりじょりとうなりを上げて剃り上げている。剃り上りはなんともすっきり爽快である。新たな発見であった。

最近、スーパーで良く見かけるようになったクラフトビールにはまっている。国内4大ビールメーカーの定番のビール(特にK社)を当たり前のように飲んでいたが、クラフトビールには各々に特有の個性があり、舌で味を、そして鼻に抜ける香りを感じて飲むのはとても楽しい。その日の気温、ビールの冷たさ、自分自身の状態(喉が渴いている、疲れている、など)によって、ビールの味、香りが微妙に変わってくるのは新鮮である。好みのクラフトビールに出会ったときの嬉しさはたまらない。リピート決定である。ただ、期待外れのビールのこともある。少し損をしたなと思うが、1本の価格は300円から500円なので諦めはつく。新たなクラフトビールとの出会いにわくわくしている。(T・H)

【 編集後記 】

定例会には最近遠方からもオブザーバーでご参加の方が少なくなく、そのお話を聞かせていただくと、同様な立場にいる方と色々な困りごとの話し合いをなさりたい気持ちが伝わってきます。

関東甲信地方の梅雨入りは6月8日頃、梅雨明けは平年だと7月下旬になるそうです。寒暖の差により体調を崩されぬよう、生活・生活環境にも気を配られるよう心より祈っています。(K・T)

これからの予定(7月ー)

月 日	項 目	場 所
7月1日	定例会	市民活動センター
7月5日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
7月10日	県南かれん	総合福祉センター
7月15日	婦人茶話会	総合福祉センター
7月27日	県連 理事会	水戸精神保健福祉センター又はウェブ
7月29日	役員会	市民活動センター
8月1日	定例会	稲敷市新利根公民館

